

シンガポール日本人学校の3年間で振り返って

前シンガポール日本人学校小学部チャンギ校教諭
川越市立川越小学校 教諭 谷口泰夫

1 はじめに

シンガポール日本人学校は、2つの小学部と1つの中学部の3校から構成されている。児童生徒数は1700名を超え、世界の日本人学校の中でも大規模な学校である。私が勤務したチャンギ校は、チャンギ空港のそばに位置し、平成7年に落成し、平成10年4月に開校された学校である。

私は、平成20年度にチャンギ校に校長とともに着任した。1・2年目は校務主任、3年目は教務主任として校長の指示のもと、学校施設の整備や教育課程の編成に携わった。校長は、課題を見つけたら即改善を合い言葉に精力的に学校改革を行った。「校長が変われば学校が変わる」という言葉があるが、まさにその言葉を実感できた3年間であった。3年間の主な取り組みを以下に述べたい。

2 実践報告

(1) 全教職員をあげての挨拶運動

チャンギ校の朝は早い。7時30分になると続々と22台のスクールバスが到着し、児童が登校してくる。その子どもたちを数名の教員がエントランスホールで迎える。着任当時は、子どもたちの挨拶の声も小さく、声が出ない児童も少なくなかった。

そこで、教職員の勤務時間を30分早く開始し、挨拶指導に重点を置き元気よく挨拶できる児童の育成を目指した。具体的には、子どもたちが登校してくる7時30分過ぎには、担任外の教員はすべてエントランスホールで子どもたちを迎え、一人一人の子どもたちと確実に挨拶を交わせるようハイタッチでの挨拶を行った。各担任は、教室で明るく元気な挨拶で子どもたちを迎えた。始めの頃は、ハイタッチに抵抗を持ち、恥ずかしがる児童も見られたが、教職員の取り組みに加え、児童会が加わっての朝のハイタッチ運動や朝会での挨拶を奨励する校長講話により、徐々に子どもたちの様子が変わっていった。1年後には、ほぼ全員の児童がハイタッチ挨拶ができるようになった。

また、国際理解教育の一端としてシンガポールの祝日前は、教職員が民族衣装に身をまとい、子どもたちを迎えた。シンガポール最大の祝日「チャイニーズニューイヤー」前は、民族衣装デーとし、子どもたち自身も民族衣装を着て登校する日も設けた。

こうした取り組みにより、子どもたちの元気な声がエントランス中に響き渡るようになった。

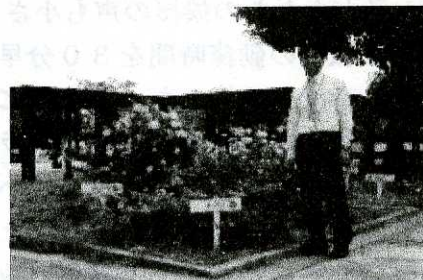


(2) 保護者と学校が一体となった学校教育

シンガポールは、国土が693平方メートルと東京よりも小さな国である。そこに在住している日本人が約2万にである。そんな狭い国での関心事はやはり学校教育に集中する。特に、悪い噂はあっという間に広がる。例えば、学校でうまくいっていないクラスがあるとしたら、その翌日には「〇年〇組は学級崩壊しているようだ」といった噂が隣の学校まで広がっている。この噂が広まる早さの裏には、国が狭く、日本人が買い物をすると集中していることやほとんどの配偶者が主婦に専念していること、そして学歴の高い保護者が多く子どもの教育に関心が強いことが起因している。教員は文科派遣が8割を占めるが、2割は財団派遣や現地採用の講師でまかなっている。そのため、どうしてもクラス間の担任の力量差が出てしまう。実際に、一年目に動機で入った教員の中に大学を出たばかりの財団派遣講師がいたが、4月当初より保護者クレームが届いた。校長、教頭、教務、校務が教室環境作りや授業の補助を行うことで何とか1年間、クラスを保つことができたが、私たちにとって良い教訓となった。その後は、校長自ら精力的に専任講師の人選を行い、即戦力となるベテラン講師を雇うことに努めた。そして、学校支援ボランティアを開設し、保護者と学校が一体となった教育を目指した。ボランティアの開設は校務主任が窓口となって行われたが、ほぼ8割の家庭がこのボランティアに登録していただけた。主なボランティアは次のようなものがあった。

①花いっぱいボランティア

校内の花にネームプレートを作成したり、シンガポールのコインの裏に刻印された花を集めて花壇にしたコインフラワーガーデンの設置などを行った。



- ②学校図書ボランティア・・・読み聞かせや図書室の整備等
- ③通訳ボランティア・・・校外学習の際の通訳等
- ④校外学習ボランティア・・・校外学習の際の安全補助等
- ⑤書道ボランティア・・・書き初めの際の師範や個別指導等
- ⑥クラブ活動ボランティア・・・バスケットボールクラブや囲碁将棋クラブ等
- ⑦調理ボランティア・・・家庭科の調理実習の補助
- ⑧ミシンボランティア・・・家庭科のミシン実習の補助 等

これらのボランティア活動に参加される保護者の方々は、そのことについては教員以上に専門的な力を持った方々がそろっていたので子どもたちにとって、大変有益なものとなった。さらに、学校支援ボランティアの方々が学校に足を運ぶ機会が多くなるにつれて、大きなクレームもなくなっていった。

